

森林タイプと サルノコシカケの多様性



サルノコシカケ類は薬品・健康食品の材料として、さらに最近ではダイオキシン等の有害物質の分解者として注目されています。今後様々なサルノコシカケ類が有効利用されるものと私たちは考えています。

茨城県下の主要なタイプ（ブナ林、シイ林、コナラ林、アカマツ林、スギ林、ヒノキ林）の森林に調査区を設定、そこに発生したサルノコシカケの種数を調べてみました。その結果、最も自然な状態にあるブナ林・シイ林ではサルノコシカケの種数が多く、またその森林タイプに固有な種類が多く見られたのに対して、自然な林を伐採した後に成立したコナラ林・アカマツ林では種数がより少なく、さらに針葉樹人工林であるスギ林・ヒノキ林では最も種数が少なくなることがわかりました。

自然な状態の森林には様々なサルノコシカケが生息しており、その中には今後私たちが将来有効利用できるようになる種類がたくさん含まれているかもしれません。

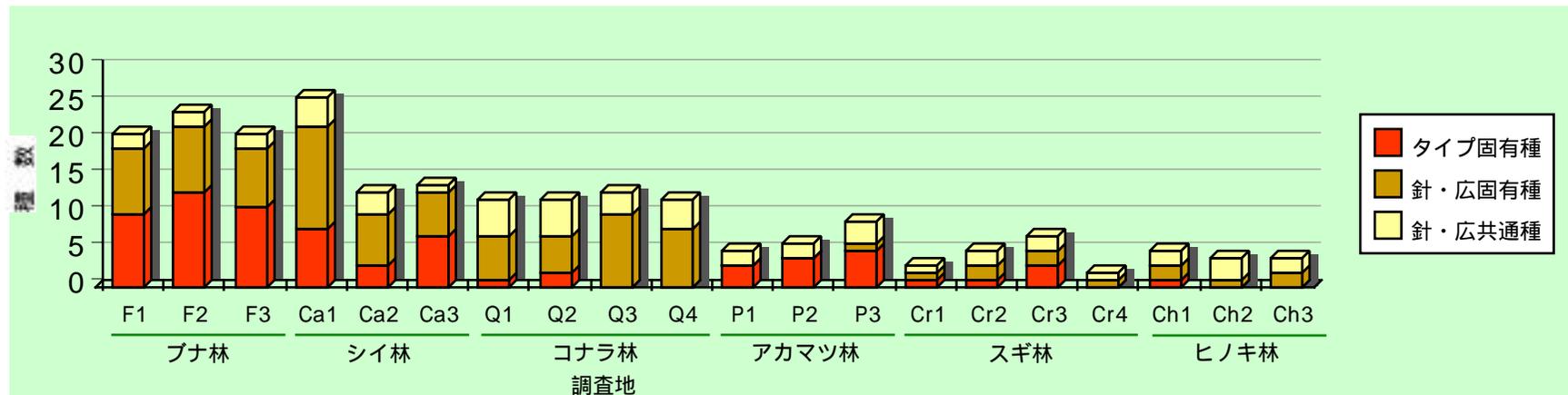


図1. 森林タイプごとのサルノコシカケの種数 ブナ林・シイ林では全体の種数・タイプに固有の種とも多い。